京都市環境保全活動センター
京エコロジーセンター

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL.075-641-0911　FAX.075-641-0912
http://www.miyako-eco.jp/

発行　2013年8月

2012年度

事業報告書

京都市環境保全活動センター
京エコロジーセンター
(財)京都市環境事業協会

編集・発行方針

「持続可能な地域社会」を目指して

京エコロジーセンター（以下、「センター」という。）は、1997年12月に京都市で開催された「地球温暖化防止京都会議」（COP3）の開催を記念して京都市が開設した環境教育、環境保全活動の拠点施設です。センターは現在、指定管理者制度※1の下で、事業運営委員会（以下、「運営委員会」という。）※2を設置して、様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会」を目指して、事業運営を行っています。

2011年度より、センター第2期中長期計画※3に沿って事業運営を行っており、本報告書は、センターに来館されたお客様を始め、多くの方々に事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しております。

※1　2009年～2012年の間、財団法人京都市環境事業協会が指定管理者とて指定されています。
※2　京都市から提示された仕様書に基づき、様々な主体により構成された「事業運営委員会」の設置が求められており、事業の企画、立案、評価を協働で行っています。
※3　2010年度末に事業運営委員会により策定された事業計画で、2015年度を目標年度と定めた計画です。（第1期は2005年～2010年）

関連情報

本報告書に掲載した情報以外にも、京エコロジーセンターホームページより、様々な情報を発信しています。

■京エコロジーセンターWEBサイト
http://www.miyako-eco.jp

■京エコロジーセンターFacebook
http://www.facebook.com/miyakoeco

■京エコロジーセンターTwitter
@miyako_eco

事業報告書2012

○　対象期間　○　2012年度（2012年4月1日～2013年3月31日）の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向けた事業、将来の見通し・予定などについて記載しています。
○　発行日　○　2013年8月
○　発行　○　京エコロジーセンター

もくじ

編集・発行方針 …… 01
館長メッセージ …… 03
事業内容と概況 …… 04
事業報告

PROJECT 1
いろいろな主体が学び、育つステージの提供 …… 06～15
館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践 …… 07
環境ボランティアの育成、支援 …… 08
子どもから大人まで環境人づくり …… 09
事業報告①～⑥ …… 10～15

PROJECT 2
いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携‥ 16～20
地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携 …… 17
NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携 …… 18
事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携 …… 19
事業報告①② …… 20

PROJECT 3
持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流 …… 21～26
情報発信・広報対策 …… 22
イベント（プログラム）の企画、実施 …… 23
事業報告①～③ …… 24～26

パートナーの声 …… 27
まとめ …… 28
事業運営体制 …… 29
資料集 …… 31

館長メッセージ

「もう一つの大切なエネルギー」

京エコロジーセンター館長　高月　紘

一昨年の3.11の原発事故を契機に、自然エネルギー、再生可能エネルギーへの関心は非常に高くなってきています。太陽光発電、風力発電、小水力発電、バイオ燃料、地熱利用など地域分散型エネルギーの開発がいろいろと試みられるようになってきました。このことは、これまでのような大きな電力会社の大規模な火力発電や原子力発電に依存することなく、地域、地域において自力でエネルギーを確保しようとする動きであり、大変意義深いものがあります。さらに資源についても、地域の再生可能資源の活用を見直す動きがあります。具体的には、森林、農水産物などについての、いわゆる地産地消運動です。地域単位で再生可能なエネルギーや資源を確保することで始めて、地方自治の自立的な施策が打てるようになると思われます。

そして、さらに地域が自立的な活動をするためには「もう一つの大切なエネルギー」が必要です。それは、市民の自立的な活動エネルギーです。この市民の活動エネルギーがあって地域活動が活性化されるのです。環境関係でいえば、この活動エネルギーを生み出すもとは環境人材（環境活動に熱意をもって取り組む人）です。これまで、当エコロジーセンターは開館以来一貫して、環境人材の育成に力を入れてきました。

このたび、当センターの指定管理者である財団法人京都市環境事業協会が、京都市の「エコ学区事業」のサポート業務を行うことになりました。「エコ学区事業」とは、各学区単位で市民が様々なエコ活動を行うことを支援する事業です。その際、重要となるのが市民の活動エネルギーをどのように引き出せるかです。

これまでのセンターでの環境人材育成の成果をどう「エコ学区事業」に結び付けられるか、成果が問われるところです。

～ センター第2期中長期計画 ～

事業内容と概況①

将来像及び実現のための事業分野と方向性・事業プロジェクト一覧

京エコロジーセンターの将来像

「持続可能な地域社会」の実現に向け、多くの国内外の子どもや大人、事業者、学生、NPOが集い、様々な環境学習プログラムが展開され、環境保全活動を担う人が「育つ場」、その活動を「支援・連携する場」、環境保全活動の成果を「発信する場」になっている。

京エコロジーセンターの学びと成長

事業分野1　学び・育ち

いろいろな主体が学び、育つステージの提供
（人づくり、場づくり、仕組みづくり）

【方向性】
- 京都エコロジーセンター独自の楽しい環境学習プログラムを専門家、事業者、NPO等のパートナーシップにより開発する。
- 技術や知識を持った専門スタッフや環境ボランティアが、その場に応じて学習プログラムを実施する。
- 京都エコロジーセンターや地域で活動する多様な環境ボランティアを育成する。
- 子どもや親、教師、事業者などの「おとな」を対象とした環境学習の機会を設け、繰り返し参加できるようにし、環境意識の向上をはかる。
- 市内の多様な自然環境や環境関連施設を活かして、京都市全域をフィールドとした活動を実施する。

事業分野2　支援・連携

いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携
（支援・連携する場）

【方向性】
- 地域で環境保全活動を進める時に、必要な支援を受けたり連携できるような拠点となる。
- 環境保全活動をしている人たちの交流の場や機能を提供する。
- 環境に関心のある人や環境保全活動をしてみたい人たちが必要な情報を入手できる場や機能を提供する。

事業分野3　発信

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流
（発信する場）

【方向性】
- 京都市の市民、事業者、行政、大学等教育研究機関、学生、NPO等のパートナーシップによる協議により、先進的な調査・研究・モデルプロジェクトの支援を行う。
- 京都エコロジーセンターの取組や成果を、様々な方法や機会を通じて日本全国や世界に発信し、交流する。
- 世界や全国の環境に関する情報を収集し、市民にわかりやすく発信する。
- 広く市民に開かれた、環境コミュニケーションの場や機能を提供し、環境や京エコロジーセンターに関心のある人を増やす。

実現のための事業プロジェクト

1-1	館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践	2-1	地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携	3-1	情報発信・広報対策
1-2	環境ボランティアの育成・支援	2-2	NPOをはじめとする環境保全団体への支援・連携	3-2	イベント(プログラム)の企画、実施
1-3	子どもから大人まで環境人づくり	2-3	事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携		

情報力パートナーシップ

共通プロジェクト	4-1	「情報力」の強化	4-2	パートナーシップ型事業の推進

事業内容と概況②

つながる・ひろがる・支え合う・成長する京エコロジーセンターのすがた

1.3つの事業分野

【いろいろな主体が学び、育つステージの提供 分野のプロジェクトと事業】

1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践
- 環境学習プログラム開発、ツール(整理)
- 展示
- 団体見学

1-2 環境ボランティアの育成、支援
- 環境ボランティアの育成、支援

1-3 子どもから大人まで環境人づくり
- 地球環境保全リーダー養成・研修
- 親子エコセンクラブ

学び・育ち

【いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携 分野のプロジェクトと事業】

2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携
- 地域での環境保全活動支援・連携

2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携
- 環境保全活動調査・支援・連携

2-3 事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携
- 事業者連携
- 教育機関連携

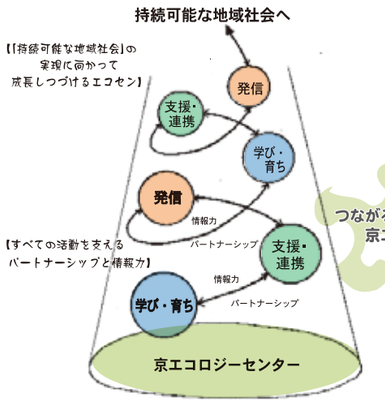
支援・連携

【持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流 分野のプロジェクトと事業】

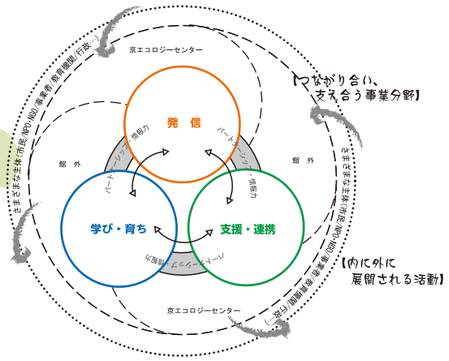
3-1 情報発信・広報対策
- 広報
- 外部出展

3-2 イベントの企画、実施
- イベント

発信



つながる・ひろがる・支え合う・成長する京エコロジーセンターのすがた



2.すべての事業と関連する共通プロジェクト

【「情報力の強化」の中で、特に意識化するプロジェクトまたは事業】

- 事業者連携 — 企業等のとらえ方を固め、具体的な支援・連携の方向性を見出す
- 環境保線活動調査・支援・連携 — NPO、地域組織等に対し、必要な支援・連携とコーディネートを行う
- 教育機関連携 — 今後どういう支援・連携が必要か模索する
- 環境ボランティアの育成、支援 — 他の機関やボランティアに提供できる情報の共有や整理を勧める

(「情報力」強化プロジェクト)
情報力

内は、目指すもの。期待される効果

【関係団体等と連携することで相乗効果が期待されるプロジェクトまたは事業】

- 環境学習プログラム開発
- 環境ボランティアの育成、支援
- 地球環境保全リーダー養成・研修
- 地域での環境保全活動支援・連携

(パートナーシップ型事業の推進プロジェクト)
パートナーシップ

PROJECT 1

2012年度事業報告

いろいろな主体が学び、育つステージの提供

1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践

1-2 環境ボランティアの育成、支援

1-3 子どもから大人まで環境人づくり

事業報告

- プログラム開発
- 団体見学
- 環境副読本
- 常設展示
- 企画展示・関連イベント
- かえっこバザール
- エコメイト養成講座
- 案内活動、グループ活動、サポート活動支援
- ステップアップ研修
- 環境教育リーダー養成講座
- 自然エネルギー学校・京都
- 大学コンソーシアム授業
- 京都教育大学授業
- 事業者向け講座
- 職場体験受け入れ(インターン)
- エコオフィス
- いきもの探偵団
- エコセンクラブ

1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践

2015年度 到達目標

幅広い年齢層を対象に館内外において、体験を通した気づきから行動につながる体系だてた環境学習プログラム及びツールが充実している。さらに、参加者のみならずスタッフも学ぶことのできる場づくりが行われている。

2012年度 目標

①エコ学習のプログラム企画・実施において、ボランティアと協働して進めるしくみが整っている。

②気づきから行動へと体系だてるために、センターでの学習の効果を図る視点をもっている。

③センターとしての展示の在り方が確立していることにより、利活用の方針が整っている。

2012年度 成果

- センター学習の展示学習を新しくリニューアルし、2013年度より実施するために、1年間かけて科学センターと協働で作業をすすめてきました。科学センターとの数度にわたる協議、プログラムの作成、2回にわたる試行を経て概ね実施体制を構築することができました。また、現行のエコ学習に関してはステップアップ研修や実施後のふりかえりの際に、ボランティアから意見や改善案をいただき、それを踏まえてプログラムの改善に取り組むことができました。
- センターでの学習が、児童の意識や行動に変化を生むことができたか学習効果を測るための視点を整理し、アンケートを作成しました。実施には至っていないので、実施体制を整え2013年度より実施します。
- 担当者だけではなく1-1のプロジェクトにかかわるメンバーで「展示リニューアル」に向けた、展示開発ガイドラインを作成し、センターのポテンシャル分析を進めることができました。ただし、ガイドラインを事務局内で全体化するまでには至っていないため、来年度以降は今年度の成果をもとに、展示に関わる事務局の体制づくりを含めたリニューアル計画を進めていくことが課題です。

1-2 環境ボランティアの育成、支援

2015年度 到達目標

新規養成講座やエコメイト※1活動3年間およびその後の京エコサポーター※2としての地域活動までを見据えた活動・研修などのサポート体制が整っている。

※1:センター環境ボランティアの通称。3年任期。
※2:3年任期を終了した環境ボランティアの通称。3年間の経験を地域で活かします。

2012年度 目標

これまでのボランティア活動の記録が整理されるとともにボランティア育成・支援の枠組みが再構築され、新しい枠組みでのボランティア活動運営の形ができている。

2012年度 成果

これまでの10年間の成果を踏まえて、より魅力的で社会的意義のあるボランティア活動となるために、改めて京エコロジーセンターにおけるボランティア活動や、それに対する支援について見直す1年としました。ボランティア自身のニーズや想いを生の声として集約し、育成・支援の枠組みに関わるものについてボランティアと事務局双方で協議しました。その結果、大きな枠組み（任期など）としては作り変える必要がないという共通見解をボランティア・事務局で持つことができましたが、グループ活動やシフト活動（案内活動）への参加対象の設定、ステップアップ研修の対象と内容の設定など、エコメイト3年間の後を見据えた支援の在り方などを検討し、一部を変更・最適化し、ボランティア全体に周知しました。

1-3 子どもから大人まで環境人づくり

2015年度 到達目標

環境教育・環境保全活動を行う上で必要な知識・スキルを身につける講座が行われ、講座を修了した人々がセンターをはじめとする様々な主体によるフォローアップ・活動支援を受けて、環境リーダーとしての活動を生み出し、社会に対してアクションを行っている。

2012年度 目標

① 養成講座等の企画運営と並行して、参加者およびこれまでの講座修了生が学びを実践につなげる最初の一歩の取組みが出来るように、センター内外で支援体制を整え始めている。

② 「小学生」「中高生」「大学生」「事業者」「一般おとな」「経験者（ボランティア等）」など、それぞれの対象者の特性とニーズを考慮し、センターの特徴を活かした人づくりを目的としたプログラム（継続企画、新企画ともに）が企画提供されている。

2012年度 成果

- 養成講座修了生の支援連携を検討するために、講座の企画段階から講座後の実践につなげることを意識して関わりました。実施団体とも協力し、新しい企画が実現したり、次年度以降に検討したいアイデアが生まれたりしました。
- それぞれの対象者にわけて、人材育成プログラムとしての質的向上を目指し、特に、中学生の職場体験と大学生向けのインターンシップと講座については、関わり方やプログラムのノウハウが蓄積ができました。小学生を対象とした「エコセンクラブ」と「いきもの探偵団」（ビオトープ活用）では、共に関わるボランティアスタッフの成長も同時に意識して企画し、実施できました。

事業報告①

プログラム開発

1-1

団体見学やエコ学習で実施している既存プログラムのブラッシュアップを図るとともに、2013年度から実施するエコ学習の「展示学習」の作成に向けて取り組みました。館内の展示を活用した新たな環境学習プログラムを、京都市青少年科学センターと協働で作成しました。また小学校や中学校などの学校団体、PTAの保護者向けなど幅広い層を対象に、依頼にあわせた環境学習プログラムの出前授業もおこないました。2012年度は8件実施しました。

団体見学

1-1

団体見学では、子どもから大人まで様々な団体の受入れをおこなっており、職員や環境ボランティアによる館内案内や体験プログラムを実施しています。2012年度は、194件5468名のお客様にご利用いただきました。そのうち中国や韓国など、外国からも23件444名の見学を受け入れました。また京都市内の小学4年生や5年生が環境学習に訪れるエコ学習では、111校5504名の児童を受け入れました。

環境副読本

1-1

毎年小学4年生向け、5年生向け、中学生向けの3種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、配布しています。今年度も全ての環境副読本を最新のデータに更新し、京都市内の小学校・中学校に配布しました。小学生向けには補助教材としてインタビュー動画の作成も行いました。また、京都市教育委員会の協力を得て、学校での活用状況の調査も行いました。

■環境副読本インタビュー動画ホームページ
http://www.miyako-eco.jp/advice/

事業報告②

常設展示

1-1

日々館内展示物の修理・改善を行っています。また、環境ボランティアと共に展示の企画を進め、作成・修理、改善作業を進めています。

2012年度は特に、次年度以降のリニューアルに向けて常設展示の改善案を担当職員だけでなく、職員全体及びボランティアの展示部と共に検討することができました。

企画展示・関連イベント

1-1

計5回の企画展を開催しました。

特に開催9回目を迎えた「エコ住宅素材展」では、企画・運営者の関西自然住宅推進ネットワークと共に開催時期等も含め、準備段階から共同で企画を進めてました。

さらに新たな企画展関連イベントして、普段のエコロジーセンターのプログラムと連動したイベントを企画し実施しました。

かえっこバザール

1-1

活動2年目を迎えたかえっこバザールは、毎月開催に取り組み、館内・館外合わせて13回開催しました。参加者は、1581名でした。

そのうち「おいけフェスタ」では他府県で長年かえっこに関わっている方々と、協働でオリジナルプログラムを実施することができ、スタッフ同士情報交換をすることもできました。また、経験を積んだボランティアにより自身が活動する地域でのかえっこ開催にもつながっています。

事業報告③

エコメイト養成講座

1-2

センターで活動する環境ボランティア「エコメイト」の募集を行い、約4か月の講座を通じてエコメイト活動に必要な知識・スキルを学ぶ場を提供しています。

講座では、エコメイトの活動意義や、環境問題の基礎知識、グループで活動を円滑に行っていくためのノウハウなどを伝えています。

2012年度は、27名が受講し、内19名が新たにエコメイト13期生として登録しました。

案内活動、グループ活動、サポート活動支援

1-2

環境ボランティアは、展示解説、環境学習プログラムやイベントの企画・実施を通じて、環境に配慮した暮らしを広める活動をしています。

そうした活動をより活発にするために、交流の場を設けたり、活動について気軽に相談できる時間を作るほか、活動情報を発信する「エコセン便り」の発行等を行っています。

2012年度は、環境ボランティアと事務局が活動についてフラットに話せる場として「ボランティア語ろう会」等を開催しました。

ステップアップ研修

1-2

環境ボランティアエコメイトの活動がさらに充実したものとなるように、月1回程度の研修を企画・実施しています。2012年度は年間で13回の研修を実施しました。案内活動に役立つ環境問題の知識や、お客様とのやり取り・コミュニケーションの取り方、環境学習プログラムの実施の仕方など、様々なテーマの研修を行いました。

事業報告④

環境教育リーダー養成講座

1-3

「環境教育リーダー養成講座」では、環境教育実践者として職場・地域・環境NPO・学校等において、活躍できる次の担い手となる「環境教育リーダー」を養成する講座です。全6回構成の講座となっており、様々なテーマの環境教育プログラムの体験と共にプログラム実践に必要なスキルを知り、実際にプログラム実践もおこない環境教育リーダーに必要な「実践」というスキルを講座を通して身につけます。また、養成講座修了生の活動をフォローするための講座も行っています。

2012年度は25名が受講しました。

自然エネルギー学校・京都

1-3

「自然エネルギー」を地域社会に普及・定着させるため，市民・地域による自然エネルギー普及に必要な視点を学び，自然エネルギー普及の担い手とネットワークを育てるための全4回構成の講座を実施しました。また、新しい層（若者、主婦）がエネルギー問題に関心を持ってもらうために「自然エネルギーカフェ」を実施しました。エネルギー問題に対してどう考えているかワークショップや映画会などを行いました。また、講座修了生へのフォロー講座として「メガソーラー見学会等」も行っています。

2012年度は36名が受講しました。

大学コンソーシアム授業

1-3

公益財団法人大学コンソーシアム京都による単位互換制授業を、龍谷大学の協力講座として「京都発エコ・デザイン学」を行っています。環境問題について考え、環境問題に取り組むさまざまな取り組みを行政、企業、環境NPO、若者、学生の事例発表やディスカッションから学ぶなかで、京都市内の大学に通う学生が今後のライフデザインに「環境」の視点を実践的に取り入れていく視点を育む機会を提供しています。

事業報告⑤

京都教育大学授業

1-3

京都教育大学の授業「総合演習『環境教育の実践』」をセンターと連携して実施しています。全体を通じて（5日間）、環境教育を体系的に学び、最終日に学生が作成したプログラムを、センターを訪れる来館者を対象に実施しています。

事業者向け講座

1-3

「事業者向けセミナー～企業における環境と社会貢献の取組みに向けて～」を京のアジェンダ21フォーラムと協働で実施しました。「環境」を軸にした企業の社会貢献に関心を持つ事業者を対象に，ゲスト講師の事例発表や、意見交換のためのパネルディスカッションを行うことを通じて、事業者による環境側面での社会貢献を支援しました。また、事業者間の交流を深める場が意外に少なく、異なる事業をおこなう企業の間での互いの取組みを知りあうきっかけ作りも行いました。

職場体験受け入れ（インターン）

1-3

職場体験は、京都市教育委員会が実施している「生き方探究・チャレンジ体験」で京都市立洛南中学校から3名受け入れを行いました。ブログ更新や展示作成・修復作業などの実務体験を行いました。また大学生のインターンシップでは7名を受け入れました。実習期間の中で、一般来館者へのプログラム実践やイベントのスタッフ補助、「京都発エコ・デザイン学」では、講座受講生に対して館内案内などの実務体験を行いました。事業を通じて環境教育活動及び環境保全活動への理解を促進することで，将来の活動実践に資する人材養成を行っています。

事業報告⑥

エコオフィス

1-3

センター事務室のエコオフィス化を推進することで、エコオフィス・モデルの一つとして、ハードとソフトの両面から，事業者等に発信・提案するコンテンツを充実させることを目的とします。また、内部だけで完結するのではなく本事業を他団体とのパートナーシップで進めており、2012年度から事務室のフリーアドレス化に取り組み、エネルギーの効率的な利用を実現しました。

いきもの探偵団

1-3

センター屋上のビオトープをはじめとした、施設内・施設周辺の自然フィールドを活用するプログラムを定期的に実施しました。自然に関心を持つ新規利用者の来訪・参加を促すとともに、身近な自然を活用した継続的な自然体験の場をつくり、生きものの生態および生態系を体験的に理解する人が育つ場にすることを目的として行いました。また、環境ボランティアがプログラムに係わることにより、身近な自然に興味を持ってもらいボランティアの活動の幅を広げました。

エコセンクラブ

1-3

センター屋上の畑をフィールドに、米や野菜の育成を通じて、食の循環を親子で学んでいます。2012年度は、22回のプログラムを実施し、田んぼや畑の土づくりから、苗の植え付け、草引き、間引き、収穫、調理、ミミズコンポストを活用した堆肥化等を体験しました。活動を通して、環境保全活動を主体的に実践できる親子が増えるとともに、スタッフとして関わる環境ボランティアも、1年間、同じ子どもと関わることで、子どもの学び・育ちをどう促していくかを学ぶ貴重な機会となっています。

PROJECT 2

2012年度 事業報告

いろいろな主体による、環境保全活動への支援と連携

2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

2-3 事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携

事業報告

- 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携
- 環境保全活動助成

2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2015年度 到達目標

自治会をはじめとする地域の様々な主体が、自主的に環境配慮型コミュニティづくりを行うための支援体制が整っている。

2012年度 目標

2011年に関係を持った地域と関わる中で捉えた「地域の環境活動へのニーズ」を基に、自主事業として地域環境活動をサポートできる体制を整え、外部に提供できる中身を充実させる。

2012年度 成果

既存の地域学習会向けプログラムは、複数回の実施が前提の構成となっています。複数回の時間確保を地域にお願いすることは、負担も大きいため、1回で完結するプログラムが提案できると、地域で環境活動を始めるきっかけとして受入れられやすいことがわかってきました。これを受け、京エコサポーターのグループ「チームえこ伝・でん※」が1回で完結するプログラム実施のためのテキストを作成しました。プログラムの実践練習も始まり、地域に提供するプログラムが整いつつあります。

※地域へのプログラム実践の練習を行うグループです。

2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

2015年度 到達目標

市内の環境保全活動団体の現状を理解しながら、各主体と京エコロジーセンターが互いに発展するための、支援・連携の方法が構築されている。

2012年度 目標

助成金事業の選考・採択を通して、助成制度が改善されている。
主に地域コミュニティ等の小規模団体が、助成金交付以外の支援を受け、環境保全活動の活性化（活動資金・担い手・情報・基盤備品等の充実）につながっている。

2012年度 成果

- 「環境活動スタートアップ講座」として、助成金申請にむけた事業ミッションの設定方法等について、ワークショップを行い、小規模団体の活性化につなげることができました。
- 中間支払制度や、事業助成と基盤助成を合わせたタイプができるなど、助成制度はより改善されました。
- 助成金事業選考プレゼンテーション時に、選考委員がアドバイス・連携の提案を行い、実際の事業実施時に活かされた例が確認されました。
- 「伏見のヨシ原、再発見!プロジェクト」「『省エネ普及ネット・京都』による省エネ相談所事業」など、相談があった団体に対し、事業に即した柔軟な支援を行い、環境保全活動を促進することができました。

2-3 事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携

2015年度 到達目標

市内の事業者や学生を含む教育機関が行う環境保全活動の現状を理解しながら、各主体とセンターの活動が互いに発展していくための、支援・連携の方法が構築されている。

2012年度 目標

センター社会的役割・提供できる資源が整理され、対象別に発信することで、新たな関係性がうまれている。

2012年度 成果

●センターが事業者、教育機関に対して提供できる資源が見え始めてきました。
（環境教育支援、ネットワーク・コーディネート機能）
●教育機関と連携した事業は、ノウハウの蓄積等一定の成果を生み出しています。
●事業者向けのセミナー開催が、事業者との新たな関係性構築に寄与しました。

［関連事業］

・京のアジェンダ21フォーラムと共催で「CSR活動セミナー～企業における環境とCSRの取組みに向けて～」を実施。
・大学コンソーシアム授業「京都発エコ・デザイン学」にて、「働く人のエコ・デザイン」のテーマで事業者をゲストに実施。
・企画展「第9回エコ住宅素材展～これからの住まいを考える～」を実施。企画展関連イベントも実施。
・夏休みイベント「いきものの「すごい」と「ふしぎ」センサーの力」「手づくりカホンを作ろう!」を事業者と連携して実施。
・エコオフィス化事業。事務機器商社とNPOとの協働事業。
・河原町商店街振興組合、京都市との連携で空き店舗を活用した啓発活動を実施。

事業報告①

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携 2-1

自治会をはじめとする地域の様々な主体が、自主的に環境に配慮したコミュニティづくりを行うための支援を行っています。
2012年度は、京都市が主催する「低炭素モデル学区『エコ学区』事業」の中で、地域的な繋がりのある住民同士が一緒に省エネに取り組む「くらしの匠」事業を受託、実施しました。省エネ術や地球温暖化などの学習会を行うとともに、各家庭の省エネの工夫などを意見交換しながら、地域ぐるみで省エネに取り組みました。

環境保全活動助成 2-2

環境保全活動の担い手を育て、団体の活動を支援し、環境保全活動の輪を広げる目的のもと、助成制度を設けています。団体が活用しやすいよう、前年度の採択事業報告会・意見交換会の中で出てきた意見をもとに、助成制度の改善を行いました。
また、「助成金申請に役立つ!環境活動スタートアップ講座」の実施や、環境保全活動の相談受付など、活動資金以外の支援も取り組んでいます。

タイプA	先進モデル事業助成	上限100万円　応募3件、採択2件（うち1件は半額採択）
タイプB	ステップアップ助成	B−1「環境保全活動・事業助成」　上限10万円　応募6件、採択6件 B−2「環境保全活動・基盤助成」　上限10万円　応募0件
タイプC	スタートアップ助成	上限5万円　応募6件、採択4件

PROJECT 3

2012年度
事業報告

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流

3-1 情報発信・広報対策

3-2 イベント（プログラム）の企画、実施

事業報告

- ブランディング
- 広報
- 環境図書コーナー運営
- 京都・環境教育ミーティング
- 出展
- 中国技術協力支援
- イベント
- ビッグイベント
- イベント情報紙「えこいべ」

3-1 情報発信・広報対策

2015年度 到達目標

センター事業の内容・過程・成果や環境に関する様々な情報を活用しやすい形で国内外に発信し、交流している。

2012年度 目標

主に京都市内において、センターが持っている活用されていない情報を発信できる状態にできるしくみがある。

2012年度 成果

センターのマーケティング分析とコンセプトメイクの作業を終え、そのコンセプトとターゲットに合わせた機関紙の企画を行い、次年度にリニューアルする機関紙の方向性を決めることができました。

その上で、どのような情報をどこ（誰）に伝えるのか、機関紙、SNS等を含めた広報ツールを効果的に活用するための広報・PRの方向性について検討作業を継続中です。

あわせて、イベント情報、図書利用情報、その他の環境情報などを効果的に発信するための準備が整いつつあり、また、それらを発信するためのツールとして、従来の機関紙・イベント情報誌・ホームページの他に、SNSやメールマガジンなどの活用が進みつつあります。

3-2 イベント(プログラム)の企画と実施

2015年度 到達目標

環境問題に無関心な人々が関心を持つ、多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施している。そこから、センターの他事業に参加・参画する人々が現れている。

2012年度 目標

環境問題に無関心な人々がエコセンのイベントに参加し、そこからリピーターになる人が現れている。

2012年度 成果

- 4月、10月、12月にビッグイベントを開催し、環境問題に関心が薄い人々でも参加しやすいイベントを実施することができました。(2012年度イベント総参加者数7707名)
- 初参加の方からは「おもしろかった。また次回も参加したいです。」などの感想を、多くいただくことができました。
- 新規講師を開拓することで、新しい切り口のイベントを8件開催しました。
- リピーター獲得につなげるための「エコセンおすすめイベント情報」の配信システムが整いました。(登録者数:112名　3月末時点)

事業報告①

ブランディング

3-1

2012年度は、改めて京エコロジーセンターの情報発信・広報について見直しをする1年として、センターのコンセプトづくりからはじめ、今後の情報発信・広報の方向性を確認しました。その上で、使用している広報・情報発信媒体の整理を行い、効果的な広報・情報発信のための戦略を練っています。また、新たにソーシャルメディア(Facebook、twitter)の活用についてもこれまでの広報・情報発信媒体との連携を視野にいれながらはじめています。

広報

3-1

機関紙『えこせん』を隔月で年6回、各3000部発行しました。また2013年度から季刊誌『えこせん』としてリニューアルするのにあわせて、京エコロジーセンターの事業内容や魅力がより伝わるように、誌面づくりについて外部の専門家とともに協議を重ねました。ブランディングを踏まえてターゲットとなる読者層の明確化や、コンテンツの充実など魅力ある誌面づくりに向けて取り組みました。

環境図書コーナー運営

3-1

地球環境問題に関する最新の図書や資料を6,000冊揃えており、併設のビデオブースでは子どもから大人まで楽しめる映画や映像を揃えています。

2012年度は、幼児向けや生活の中でエコな取組のヒントとなるような本を多く取り入れました。また、隣接する京都市青少年科学センターと連携し、PRを行いました。

専門分野の研究はじめ、子どもの自由研究や環境学習、親子で楽しみながら役に立つ情報提供を行いました。

※参考…2週間5冊まで貸出可能。

事業報告②

京都・環境教育ミーティング

3-1

環境教育や環境保全活動に関心のある人々が京都に集い、活動紹介やワークショップを通して、様々な人・団体・取組が出会い、相互のネットワークを広げる場づくりをおこなっています。本ミーティングでは、実行委員会形式で、様々な立場からなる実行委員とともに、ミーティングの企画・運営をすすめています。第9回京都・環境教育ミーティングでは、334名の参加者を迎え、38件の事例紹介がおこなわれました。

出展

3-1

様々な方に、センターのPRや、環境のメッセージを伝えるため、地域のお祭りや環境イベント等へのブース出展をしています。単にノベルティを配るだけではなく、スタッフや環境ボランティアがブース来場者と、会話や体験を通じて、環境について一緒に考えられる機会として実施しています。ブースでは子ども向けのプログラムだけでなく、大人も楽しめるプログラムの企画・実施や、広報紙の配布等を行っています。2012年度は出展数37件、ブース来場者は8,796名でした。

中国技術協力支援

3-1

日本と中国の両首脳の合意に基づく「循環型経済推進プロジェクト」に2008年から協力をしています。プロジェクトの中で、センターをモデルとした環境教育拠点施設「中日友好環境技術情報プラザ(仮)」の設立に向け、ハード、ソフトの両面から技術支援を行っています。また、中国地方政府の環境教育担当者向けの研修にも講師として招聘され、中国における行政主体の環境教育に対する技術指導を行っています。

事業報告③

イベント

3-2

環境問題の現状を知り、行動するきっかけとなるようなイベントの企画・実施を行います。映画会・クッキング・工作教室等、楽しみながら学べるイベントを、主に親子・大人を対象に毎月開催しています。

●主なイベント実績

5月／“つながり”をかぞくで学ぶ木工教室
　　～あたたかキャンドルスタンドづくり～
7月／夏のエコセン映画会
　　「ハッピーフィート2～踊るペンギンレスキュー隊～」
6月、9月～2月／季節のお料理教室(大人対象)など多数

ビッグイベント

3-2

環境問題に興味・関心を持ってもらう入口となるようなイベントの企画・運営を行います。15～20団体にブース出展を依頼し、親子が気軽に参加できるイベント(1000名規模)を、全館を使用して終日開催します。

●主なイベント実績

4月／京エコロジーセンター開館10周年記念イベント
　　「ここからエコはっしん!」
10月／大人と子どもで遊んで学ぶ!「未来フェスタ京都～科学×エコ～」
12月／地球温暖化防止月間イベント
　　「ひとときフェスタ～まちで森とつながる暮らし～」

イベント情報紙「えこいべ」

3-2

主に親子を対象とした、センターで開催するイベントについて掲載する「えこいべ」の作成をしています(毎月発行)。センターイメージキャラクター「ちきゅまる」のイラストを取り入れた、手に取っていただきやすいデザインを心がけています。夏休みは特大号を作成し、近隣小学校をはじめ、市内地下鉄沿線の小学校や幼稚園、保育園約35校に配布しました。今後、新たな配架先についての調査も検討していきます。

パートナーの声

エコセンから「DO YOU KYOTO?」の輪を広げよう!

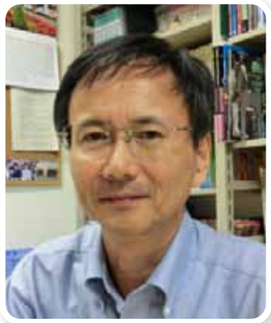
「DO YOU KYOTO?」は、地球温暖化防止京都会議(COP3)で採択された「京都議定書」にちなみ、世界で使われている「環境にいいことしていますか?」という意味の合言葉です。COP3開催記念館として昨年開館10周年を迎えた「京エコロジーセンター」では、市民・事業者・学識者・NPOの皆様との"共汗"により、「DO YOU KYOTO?」の実践につながる事業が積極的に展開されてきました。これまでの創意工夫にあふれる取組を通して、平成24年度の来館者数は過去最多であった23年度を更に上回るなど、エコセンは環境学習・環境活動の拠点施設として広く親しまれています。

東日本大震災の発生を契機として、我が国の地球温暖化対策は重要な局面を迎えています。京都市では、エコセンとの連携の下、民生・家庭部門の温室効果ガスの削減を図るため、京都ならではの地域コミュニティとしての「学区」を礎として、地域ぐるみで環境活動に率先して取り組む「エコ学区」事業を推進しています。

Only One Earth―かけがえのない地球を良好な状態で未来に受け継いでいくために、エコセンから「DO YOU KYOTO?」の輪を広げていきましょう。

京都市地球環境・エネルギー政策監 **佐伯 康介**さん

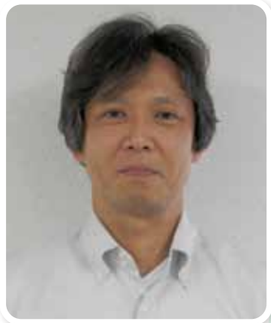
環境教育の「実践」と「研究」の往還の拠点に



京エコロジーセンターには「京都市環境保全活動センター」という別称(正式名称)がありますが、私はもうひとつ「京都市環境教育実践研究センター」という名前もふさわしいと思っています。実際に、京都市の小中学校、高校、大学のみならず市民のための環境教育・学習に果たしている意義の小さからぬことは、日本中の環境教育関係者の認めるところです。今後はさらにこの教育・学習の実践を研究に発展させて、エコセンならではの実践・研究の往還を果たしてもらいたいと思っています。実践だけの施設、研究だけの施設はまま見られますが、真に実践と研究が往還している施設となると…、さらにそれを行政、教育委員会、事業者、NGO/NPOとの協働で行っている施設となると、ますます…。エコセンの今後に大いに期待しています。

京都教育大学　教育実践センター機構長・教授 **水山 光春**さん

相互理解を深める拠点として



環境担当になって2年が経ちました。大気、水、動植物、廃棄物、エネルギー…など、"環境"という言葉には多くの意味が含まれており、その受け持つ範囲はますます広くなっているような気がします。そして、それぞれのキーワードに対する考え方やとらえ方などは、人によって、立場によって全く正反対になることも少なくありません。"環境問題"が身近になってしまい、"環境"を考えるきっかけが増えている中で、このような考え方の違いについて相互に理解する必要があるのではないかと考えています。京エコロジーセンターは様々な立場の方がかかわるコミュニティだと思います。そのコミュニティで相互の理解が深まることを期待しています。

京都商工会議所　産業振興部　まちづくり推進担当課長 **外池 順一**さん

まとめ

PROJECT 1 いろいろな主体が学び、育つステージの提供

プログラム開発事業では、毎週日曜日に行う「ちきゅまるひろば」で、多くのプログラムができ、いつきても違うプログラムが体験できるまでになりました。また、おもちゃの交換をおこなう「かえっこバザール」もセンター事業として定着し、多くのお客様にお楽しみいただいています。ボランティア事業では、3年任期終了後、地域活動を生み出し、支援して行くために必要な能力を3年間で高める活動デザインや枠組みの整備が急務となっています。

PROJECT 2 いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携

地域支援でも、環境ボランティアの活躍により、地域主体の環境活動のサポートを行ってきました。しかし、支援するためのプログラムが用意できていないため、地域住民には、センターが提供できる支援がわかりにくく、且つ、ボランティアもその都度プログラムを準備しなければならない等の問題があります。プログラム開発事業や助成金事業等との連動を図り、地域での持続的な環境活動をサポート出来るようになることが今後の大きな課題です。

PROJECT 3 持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流

イベント事業では、新規イベントの企画実施を通じて、初めてセンター事業に参加するお客様の割合を高めました。また、ブランディング事業では、マーケティング分析、センターのポジショニングを行いました。これにより、より魅力的なイベントの企画と、その情報がより多くのお客様の元へ届くための下地づくりができました。これからは、他のセンター事業の広報も充実させ、より多くのお客様にセンターの利用方法を知っていただけるようにしていきます。

事業全体を通じて

第2期中長期計画策定から2年が経ちました。2015年の到達目標年度に向けた、事業のPDCAサイクルも安定して運用できるようになってきました。このことにより、2015年度到達目標に対し、今どこまで進捗しているか、そして、次に踏むべきステップが何なのかを見定めやすくなってきました。また、第1期中長期計画策定時に設置された事業部会では、事業の内容量が増加してきたことと深化してきたことにより、個々の事業内容を深める議論がしづらくなってきました。そこで、2013年度より、特定の事業で、より大きな成果を得て行くために、事業部会制度を改め、テーマ別の「作業部会」を設置し、特定の事業で内容を深めていく制度をとることとしました。幅広く意見を求めることができた事業部会が無くなることのデメリットもありますが、今後は事業運営委員会がより効果的な議論の場となるよう、事務局として努力していきます。一方で、課題としてきた評価システムの確立に関しては、指定管理者の公益法人財団への移行に伴い、事業運営体制を改める必要が出たため、これを踏まえて対応してまいります。人の学びと育ちという、なかなか表現しにくい成果をいかにわかりやすく、客観的に事業評価として表現できるかに挑戦していきたいと思います。2013年度に、中長期計画の半期を過ぎるため、計画の進捗管理に併せて、事業の評価はもちろん、計画の評価、次期中長期計画の策定をも見据えた議論をパートナーの皆様と進めていきたいと考えています。

また、4年間の指定管理期間の終了にあたり、最終2カ年で、過去最高の来館者数を連続して更新しできたことは、お客様からも一定の評価をいただいているものと考えています。さらに昨年度は、2013年度から4年間の指定管理者としての指定を受けることができました。これも、市民の皆様はもとより事業運営委員をはじめとした、多くのパートナーの皆様と築き上げてきた成果の賜物であると感じています。

今後も、「持続可能な地域社会を築くための人を増やし、つなげる」ため、さらに多くのお客様にお越しいただき、多くの学びを喚起するために、質の高い事業を生み出していきたいと思います。

事業運営体制①

1. 事業運営組織

- 事業運営委員会
  - 中長期計画進行管理小委員会
  - （公募事業）選考小委員会
  - 人づくり事業部会・活動支援事業部会・情報発信交流事業部会
    - 事務局

2. 事業運営委員会委員

1	伊東 真吾	京都府温暖化防止活動推進センター
2	伊藤 哲	株式会社堀場製作所　品質改革推進部
3	乾 亨	立命館大学 産業社会学部教授
4	井上 和彦	京のアジェンダ21フォーラム
5	大久保 規子	大阪大学大学院法学研究科教授
6	北村 憲治	京エコサポーター
7	枚本 育生	特定非営利活動法人環境市民
8	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク
9	高月 紘	京エコロジーセンター
10	高橋 肇子	京都市地域女性連合会
11	外池 順一	京都商工会議所産業振興部まちづくり推進担当課長
12	中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議
13	西村 俊治	京都市教育委員会青少年科学センター
14	西本 雅則	京都市市民活動総合センター　副センター長
15	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
16	久山 喜久雄	同志社大学 文学部文学研究科/フィールドソサイエティー
17	牧村 雅史	京都市環境政策局 循環型社会推進部 循環企画課長
18	松浦 卓也	京都市環境政策局 地球温暖化対策室 担当課長
19	水山 光春	京都教育大学 教授，教育実践センター機構長
20	宮地 伸	イオンリテール株式会社東近畿カンパニー総務部総務部長
21	山内 寛	京都市ごみ減量推進会議
22	山本 照美	エコメイト
23	山本 雅章	京都新聞社　論説委員室 論説副委員長

3. 事業部会員

人づくり事業部会

1	井上 則子	京都市立深草幼稚園　園長
2	北村 彰	株式会社日展　博学支援室室長
3	久山 喜久雄	同志社大学 文学部文学研究科/フィールドソサイエティー
4	岡野 真之	公益社団法人京都青年会議所
5	堀 孝弘	特定非営利活動法人環境市民
6	水山 光春	京都教育大学 教授，教育実践センター機構長
7	山田 正人	京都市立深草小学校　校長

活動支援事業部会

1	伊藤 哲	株式会社堀場製作所　品質改革推進部
2	大屋 みのり	京都市景観・まちづくりセンター
3	木原 浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター
4	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク
5	高橋 肇子	京都市地域女性連合会
6	長屋 博久	有限会社 村田堂
7	森本 純代	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター 副センター長

情報発信交流事業部会

1	浅利 美鈴	京都大学環境科学センター　助教
2	滋野 浩毅	成美大学 経営情報学部 准教授
3	豊田 陽介	特定非営利活動法人気候ネットワーク
4	中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議
5	中林 徹郎	京都リビング新聞社
6	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都

事業運営体制②

4. パートナーシップで運営される各種委員会の開催

(1) 事業運営委員会
3回開催（5月、11月、3月）
前年度事業の総括、事業の中間進捗状況の確認、次年度計画の策定（各事業部会ごとに議論された内容を運営委員会で最終確認を行う）

(2) 中長期計画進行管理小委員会
2回開催（7月、1月）
中長期計画の進捗管理、及びそのマネジメントシステム、事業評価制度の検討。

(3) 事業部会（人づくり、活動支援、情報発信・交流）
各3回開催（5月、11月、3月）個別事業の詳細検討

京エコロジーセンターの事業は、上記のパートナーシップで運営される各種委員会により運営されています。

5. 事務局組織図と主な事業(業務)担当

- 館　長　高月　紘
- 次　長　新喜 富雄
- 事業部長　岩松　洋
- 事業課長　谷内口 友寛
- 事業課職員　12人
- 総務課長　青谷　治
- 総務課職員　3人

事業課職員	主な担当事業
佐崎 由佳	展示
遠藤 修作	プログラム開発、団体見学、出展
松本 みどり	ボランティア、地域
仲上 美和	地域、事業者・教育機関
白戸 渓子	展示、プログラム開発
島林 あずさ	イベント、環境人づくり、助成金
新堀 春輔	プログラム開発、団体見学、ボランティア、出展
澤田 雄喜	プログラム開発、団体見学、環境人づくり
杉本 真美	イベント、助成金
吉田 隆真	ボランティア、地域
西垣 智恵	事業庶務
松本 和晃	親子エコセンクラブ

総務課職員	主な担当業務
本多 裕子	10周年事業、図書コーナー
松村 三枝子	経理
川渕　学	労務、施設管理

資料集①

資料1. 経年入館者数等

1.入館者数

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96.377
累計	86,085	169,095	243,305	319,120	388,500	466,479	546,212	626,280	695,161	782,595	878,972
(内 団体見学:上段 人数,下段 団体数)											
合計	8,794	6,796	4,870	7,217	7,050	7,584	8,850	5,911	6,714	6,026	5,468
	307	234	201	247	191	232	271	213	219	175	194
内 海外	300	127	128	245	193	683	538	628	1,081	701	444
		5	10	16	12	26	26	37	40	27	23
(内 エコ学習:上段 人数,下段 学校数 2002～2003年度は中学校含)											
合計	19,597	21,027	11,318	11,716	10,964	11,236	10,817	5,598	4,013	5,219	5,504
	235	256	243	180	182	177	178	85	96	117	111
(内 会議室貸出件数:上段 利用者数,下段 貸出部屋数)											
合計	4,047	4,333	4,895	5,306	5,454	7,167	6,707	5,280	5,432	4,987	4,807
	173	299	409	470	469	589	581	457	459	481	452

2.館外事業参加者(上段:参加者数,下段:事業件数)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936
	27	37	59	107	110	128	142	118	174	141	130

3.入館者数と館外事業参加者数の合計

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
館内	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377
館外	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936
合計	89,742	94,076	89,263	97,261	79,307	94,242	93,161	105,247	84,601	101,622	109.313

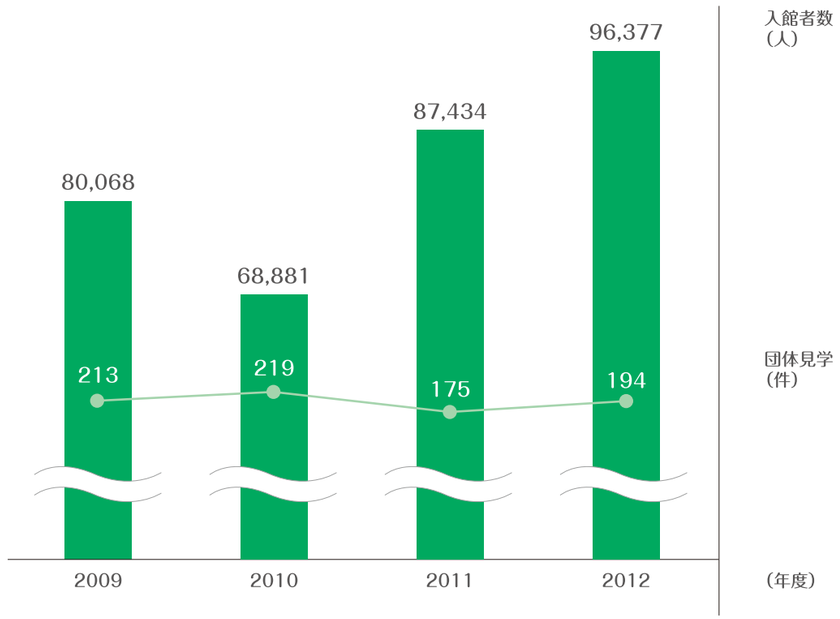
資料2. 月別入館者数

2012年度入館者数		内訳									経年入館者数		館内				館外			
		個人	団体見学				エコ学習		会議室等		2011年度	2010年度	啓発イベント		主催・共催事業		ブース出展		主催・共催事業	
			総数		(内、海外)								参加者	件数	参加者	件数	参加者	件数	参加者	件数
			人数	団体数	人数	団体数	人数	校数	利用者数	部屋数等										
4月	9,470	8,216	123	6	0	0	731	19	400	42	5,162	4,366	2,825	27	179	2	0	0	7	1
5月	7,771	6,634	452	13	65	2	291	5	394	42	6,746	5,300	365	10	138	5	819	5	149	5
6月	6,836	5,797	551	20	40	4	54	1	434	38	6,557	6,599	415	15	138	9	1,284	2	89	2
7月	9,920	8,693	670	19	92	3	23	1	534	38	7,506	6,325	561	22	315	17	478	2	333	13
8月	10,534	9,511	575	23	84	3	140	2	308	29	8,221	8,268	1,084	50	297	16	525	3	654	11
9月	6,528	5,656	442	18	7	1	104	3	326	33	6,125	5,847	245	17	220	11	813	3	359	14
10月	9,999	8,227	1,009	25	52	2	311	9	452	46	9,409	7,735	1,813	33	72	7	1,413	5	1,156	11
11月	8,828	7,448	497	19	27	2	599	8	284	32	9,751	5,738	211	9	150	7	864	7	295	13
12月	4,934	4,090	227	11	11	2	227	5	390	44	6,967	4,404	1,129	11	126	7	2,211	6	141	5
1月	5,512	4,430	229	9	20	1	565	18	288	26	6,293	3,640	364	10	50	3	0	0	19	2
2月	8,603	5,689	282	13	14	1	2,268	36	364	33	7,174	5,570	207	9	123	9	321	3	215	8
3月	7,442	6,207	411	18	32	2	191	4	633	49	7,523	5,089	337	10	101	6	68	1	723	8
計	96,377	80,598	5,468	194	444	23	5,504	111	4,807	452	87,434	68,881	9,547	223	1,909	99	8,796	37	4,140	93

※12月は、入館者カウンターの不具合により3日分の数値が不明。

資料集②

資料3. 入館者、団体数推移(2009年～2012年度)



資料4. 図書コーナー利用状況

	図書				ビデオ・DVD						図書カード登録者	
	図書総数	雑誌	貸出冊数	累計貸出冊数	保有数	利用者				貸出数	新規登録	登録者累計
						総数	小学生	中・高	大人			
4月	4,916	1,195	79	6,190	532	94	66	15	13	63	15	780
5月	4,941	1,209	109	6,299	532	109	99	5	5	78	12	795
6月	4,948	1,226	71	6,370	532	115	104	2	9	66	13	807
7月	4,953	1,241	119	6,489	532	141	109	22	10	100	24	820
8月	4,960	1,256	118	6,607	532	125	90	8	27	87	28	848
9月	4,961	1,271	99	6,706	532	60	50	3	7	49	10	868
10月	4,971	1,289	57	6,763	530	81	66	0	15	53	7	865
11月	4,984	1,298	63	6,826	534	38	35	0	3	24	1	866
12月	4,999	1,308	82	6,908	534	31	22	3	6	18	16	882
1月	5,019	1,315	24	6,932	534	57	41	2	14	40	15	897
2月	6,220	1,328	132	7,064	534	87	66	5	16	56	13	910
3月	6,396	17	125	7,189	533	125	97	9	19	19	15	925
計			1,078			1,063	845	74	144	653	169	

資料集③

資料5. 館内エネルギー使用量

1.電力使用量

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	~~12月~~	1月	2月	3月	合計
電力使用量(kWh)	20,141	12,717	9,695	23,382	44,836	45,632	22,076	12,180	38,859	40,694	41,900	33,506	345,618
・太陽光発電使用量(kWh)	0	0	1,614	2,395	2,553	1,953	1,648	1,025	944	1,061	1,219	1,924	16,336
・関西電力(kWh)	20,141	12,717	8,081	20,987	42,283	43,679	20,428	11,155	37,915	39,633	40,681	31,582	329,282
太陽光発電使用量割合(%)	0.0%	0.0%	20.0%	11.4%	6.0%	4.5%	8.1%	9.2%	2.5%	2.7%	3.0%	6.1%	
太陽光発電量(kWh)	26	19	1,715	2,399	2,553	1,953	1,654	1,039	944	1,065	1,219	1,924	16,510
売電量(kWh)	26	19	101	4	0	0	6	14	0	4	0	0	174
使用量(kWh)	0	0	1,614	2,395	2,553	1,953	1,648	1,025	944	1,061	1,219	1,924	16,366

2.水道使用量

	2/11~4/11	4/12~6/10	6/11~8/9	8/10~10/10	10/11~12/11	12/12~2/13
水道使用量(㎥)	240	166	71	95	179	183
使用量累計(㎥)	240	406	477	572	751	934

3.雨水使用量

	1/24~3/23	3/24~5/22	5/23~7/23	7/24~9/21	9/22~11/26	11/27~1/21
雨水使用量(㎥)	231	228	182	255	185	121
使用量累計(㎥)	231	459	641	896	1,081	1,202

センターは、2012年4月21日で10周年を迎えました。

10周年を記念事業として、4月21日には、記念講演とシンポジウム、4月22日には記念イベントを開催しました。

記念イベントでは、1日の来館者数としては開館以来最高の3000人を超える方々にお越しいただき、大盛況のイベントとなりました。

年　表

京エコロジーセンターの歩み(概要)

平成	西暦	事項
6	1994	京都市一般廃棄物処理基本構想策定　→　ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ
7	1995	国連気候変動枠組条約第1回締約国会議(COP1 ベルリン)
8	1996	新京都市環境管理計画策定　→　COP記念センター構想
9	1997	国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3　161カ国参加)　→　京都議定書を採択
10	1998	環境学習・エコロジーセンター(仮称)基本構想策定懇話会を設置
11	1999	環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定
12	2000	建設工事着工
		環境学習・エコロジーセンター(仮称)事業検討委員会・企画委員会を設置 →　市民・各種団体・NPO・事業者・教育関係者・行政で構成　(現在:事業運営委員会)
13	2001	環境ボランティア養成を開始
14	2002	京エコロジーセンター開館　(京都市環境保全活動センター COP3記念館 4月21日)
17	2005	京都議定書発効(2月16日)
		京エコロジーセンター中長期計画を策定(3月31日)
		京都市地球温暖化対策条例施行(4月1日)
18	2006	指定管理者による運営・管理(第1期)　〔指定管理者:財団法人京都市環境事業協会〕
21	2009	指定管理者による運営・管理(第2期)　[指定管理者:財団法人京都市環境事業協会]
23	2011	第2期中長期計画策定　→　2015年度事業プロジェクト到達点を明記
		改正京都市地球温暖化対策条例施行　→　温室効果ガス総排出量の削減目標を数値化 2020年　25%削減、2030年40%削減(1990年比)
24	2012	開館10周年(4月21日)